

2 子牛の発育値と市場成績からみた発育改善指導

1 最近の市場動向

湯村家畜市場での子牛の平均価格は、この10年間で大きく下落してきた。また、種畜としての雄子牛の減少に伴い肥育素牛となる去勢子牛の頭数が増加している。さらに雌子牛も、育種改良のための繁殖用から肥育産地向けの肥育素牛としての販売頭数が増加している。

2 子牛の発育値と市場価格

最近5年間の湯村家畜市場での去勢子牛価格は、出荷時体重よりも1日増体量（DG）との相関のが高い。

図1は、1996年度、1998年度及び2000年度の去勢子牛のDG別価格を示したが、いずれの年においてもDGと比例して価格も高くなっている。

これらのことから、繁殖和牛経営では、市場出荷時の子牛について、適正なDGを確保できるよう飼養管理技術の向上を図ることが重要である。

3 子牛の飼養管理技術

去勢子牛のDGの年度別平均は、図2のように1996～1998年度にかけて大きく減少した。

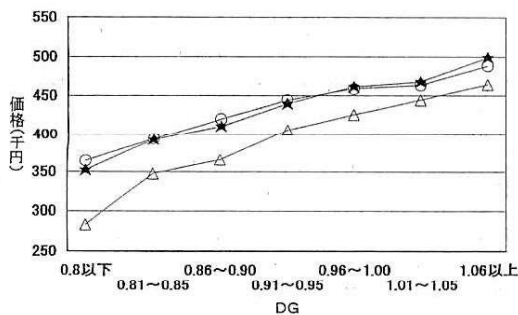


図1 去勢子牛のDG別の価格

特に成牛20頭以上の多頭飼育農家に顕著なDGの低下がみられたが、これは、急速に多頭化を進めたことによる飼養管理技術不足等が原因になっていると考えられる。

しかし、その後、飼養管理技術の改善等により、DGは上昇傾向にある。

次に、1999年度に美方郡内6農家で生育調査を行った結果、生後3か月までの発育差が大きく、それ以降では大きな差はみられなかった。このことから生後3か月頃までの飼養管理の技術差が農家間で大きいと考えられる。

4 子牛の初期発育改善

調査農家での初期発育が良い農家と比較して、悪い農家の特徴的な違いは以下のとおりであった。

- (1) 母牛の栄養度（BCS）が低い
- (2) 子牛の配合飼料給与開始時期が遅い
- (3) 子牛の飼槽と水槽が不十分である

このことから、子牛の初期発育を改善するための方法として、以下の改善策の普及を行っている。

- (1) 母牛の適正な栄養管理により、母牛が持ち合

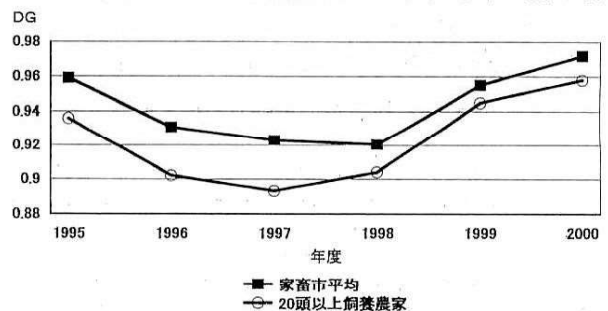


図2 去勢子牛のDGの推移

わせている泌乳能力を発揮させること

- (2) 母牛の乳量が少ない場合、代用乳でのほ乳や早い段階で配合飼料を給与すること
- (3) 子牛に対して十分な飼槽・水槽（長さや数等）を確保すること

5 今後の指導方向

今後の技術指導内容として、北部農業技術センターや和田山家畜保健衛生所と連携しながら、以下のことを実施もしくは計画している。

(1) 飼養技術研修会

(2) 全農家対象の技術資料を定期的に配布

(3) 育成成績が悪い農家に対して関係機関による個別技術指導

しかしながら、子牛の適正な増体性を確保するためには、飼養管理技術の改善だけでなく、産肉性を中心にした改良に加えて、母牛の泌乳能力の改良も必要である。

鎌田 雅志（浜坂普及センター）